

第 1 回WGの振り返りについて

第 2 回 送配電効率化・計画進捗確認WG 事務局提出資料

2023年 8 月 2 日



マクロ的検証の進め方や全体に関する委員からの主なコメント

検証の進め方

- ✓ 素人にも分かりやすいように説明してもらえると国民にも分かりやすいものになる。
マクロとミクロを両方やりながら、それぞれアップデートしながら進めていくのがよい。（北本委員）
- ✓ 安定供給との両立や、効果の時間軸・持続性も検証する必要がある。（圓尾委員）
- ✓ どこに効率化の視点を持っていくと効果が最大化できるかを考える上では事業構造を知るのが大事。
消費者としては安定供給責任にも関心があり、持続可能性に配慮した検証を。
「国際標準規格に準拠した製品の採用状況等」とあったが、海外製品の方が安価である場合でも、カーボンニュートラルや経済安保の視点から採用を許容しうるのかを最初に示してもらいたい。（河野委員）
- ✓ マクロ的検証とミクロ的検証を組み合わせることで、WGで目指す検証や横展開ができる。（華表委員）
- ✓ 初めは効率化を資材・設備のコスト削減等に絞っているが、最終的にはハードウェアのみならずソフトウェアの作り方や発注のやり方もよく調べていかないといけない。（平瀬委員）

理由確認 数字の

- ✓ マクロ的検証については、数字の理由を含めて検証することが必要。（華表委員）
- ✓ マクロ的検証では、華表委員の「理由も確認を」という意見に賛成。
競争発注比率について、一般的には比率が高い方がコスト低減に寄与するが、高ければいいという話ではない。低いのであればその理由を検証する必要がある。（圓尾委員）

第1回WGの議論を踏まえたマクロ的検証のポイントについて

- 第1回WGにおいて、マクロ的検証の進め方について各委員からいただいた御意見を踏まえ、今後のマクロ的検証にあたっては、以下の観点についての検証を通して、効率化の余地があると考えられるポイントの抽出やレベニューキャップ制度の改善に向けた議論を行うこととしたい。
 - 各製品の調達について、競争発注比率等の定量的な指標の経年比較や10社間の比較などを通じてサプライヤー構造を分析する
 - 定量的な指標から非効率である可能性が示唆される場合（ある事業者の競争発注比率が特に低い等）、その数字の理由を十分に確認する
 - 発注形態や仕様の統一化、海外製品の導入可能性、デジタル化を含む効率化の取組について確認する
 - 安定供給や事業の持続可能性への影響、消費者目線も踏まえつつ、更なる効率化へ向け丁寧な検証を行う

ミクロ的検証の進め方や全体に関する委員からの主なコメント

汎用性の検証

- ✓ 提案のあった事例の中で、汎用性があり他社とも共有できる技術や部品があるのか、逆に知財等により共有が難しいものがあるのか。（河野委員）
- ✓ ミクロ的検証については、実現効果や汎用性の観点での検証が必要。10社が集まってやるからにはベストプラクティスの横展開の効果が見込まれるかの検証が必要。（華表委員）

できなかった理由

- ✓ 一番知りたいのは、これらの発想が出てきた理由。規制料金審査の際、消費者庁から「最大限の効率化ができていいのか」と言われ、どう検証するか苦労した。こんな簡単なことがなぜ今までできなかったのか、という疑問への解がほしい。インセンティブの与え方にも示唆が出てくる。（圓尾委員）
- ✓ そもそも通常業務の範囲内に見え、これまでなぜできていなかったのか、なぜできるようになったのかの説明が必要なプロジェクトがいくつかあった。その対象がどれかについてはこの場で検討を深めていきたい。（華表委員）
- ✓ 効率化施策について、なぜこれまでできなかったのか、どういう技術革新があってできるようになったのかについて説明いただかないと、安全が担保された上での施策か分からない。（平瀬委員）

効率化の進め方 検証の対象

- ✓ ミクロは具体的なもの、効率化額が大きいものについて議論するべき。（北本委員）
- ✓ ミクロ的検証は、インパクトの大きいものを検証していくべき。検証していくことで効率化のマグニチュードをどれくらいに設定するのが適切かが分かってくるといい。（圓尾委員）
- ✓ レベニューキャップでは、効率化分は経営資源として活用できるインセンティブがある。効率化計画の実効性を高めるためには、社内での理解と推進体制の整備が重要。各社には社内へのメッセージ発信や推進体制、効果の検証の仕組みが整っているかなどについても言及いただきたい。（河野委員）

第1回WGの議論を踏まえたミクロ的検証のポイントについて

- 第1回WGにおいて、ミクロ的検証の進め方及び個別施策に関して各委員からいただいた御意見を踏まえ、今後の検証にあたっては、以下の観点について、各施策への理解を深め、効率化計画の進捗確認すべきポイントの抽出やレベニューキャップ制度の改善を図ることとしたい。
 - 各施策が、これまではできず、今回できるようになった理由（技術面、安全面等）
 - 各施策が発案され実用化されるまでの社内の検討プロセス・推進体制
 - 各施策の実現効果の算定方法及び実績
 - 各施策の汎用性（自社エリア内への展開状況及び他社への展開可能性）
- 上記の他、委員から個別にコメントがあった施策に関しては、個別に回答を求めることとする。